



特別
企画

総点検！建築物の **防災・防犯** 対策

設備管理者必読

近年、自然災害や犯罪リスクの増加に伴い、建築物における防災・防犯対策の重要性が高まっています。

本企画では、施設や設備の安全を守るために役立つ、防災・防犯製品やサービスをご紹介します。

監視カメラシステムを活用した これからの**監視・管理・ セキュリティ**と**重要設備**の 強靱化について

近年、企業あるいは公共施設等へのネットワークカメラの導入が進み、2025年時点で日本国内において監視カメラの設置台数は累計700万台以上と推定されている。現在も年100万台以上のペースで出荷が見込まれており、監視カメラがこれからの監視における主たるプラットフォームとして利用されていくことが数字からも読み取れる。

今までの監視カメラシステムは、何かしらの問題があった場合に常時撮り溜めておいた録画映像を再生し、詳細を把握するための後追いで利用であったが、最近では録画映像のエビデンスとしての活用から応用的な活用に期待するユーザーが増えてきている。

NVR から VMS への移行による設備監視・管理運用の自動化 / 省力化

その背景には、1つは監視カメラシステムのNVR (Network Video Recorder) からVMS (Video Management System) への変遷がある。簡単に言うと、映像データの記録装置から映像を管理・活用するシステムへの切り替えである。

NVRはカメラの映像をライブで見る、録画する、再生するという役割を担うシステムであったが、VMSは加えて豊富な機能を持ち合わせ、様々な用途で活用することが可能なシステムとなっている。

具体的には、

- 各種センサー情報との連携
- 他システムとの連携
- 各種イベント情報との連動や自動化の実現
- 画像解析による汎用性高い、あるいは特殊性の高い運用の効率化
- 入退管理システムとの統合による堅牢性の高い運用

など、他にも多くの運用課題に対するソリューションとして期待されている。

特に連動機能 (イベントとアクションの連動) は様々な運用業務において効率化、省力化、省人化につながることから導入するユーザー、導入を

検討するユーザーが増えてきている。

例えば、今まで利用の NVR ベースのシステムから、既存カメラをそのまま残して VMS に移行できれば、機器調達や機器設置作業、配線工事などの設備工事にかかるコストを抑えることができることから、導入検討において費用面でのハードルは下がる。

また、一部の運用業務にて VMS を試行的に導入し、業務改善が見込めると判断した結果で段階的かつシームレスに拡張しやすいシステムであれば導入リスクも少ない。

ここからはもう少し VMS の活用方法について以下の具体例を挙げながら紹介する。

- 接点情報との連動
- メールとの連動
- 画像解析システムとの連動
- ドローン連携
- 音声システムとの連携
- スマートデバイスとの連携

■ 接点情報との連動／メールとの連動

ある装置の接点信号（例えば故障信号）を検知すると、その接点信号に紐付けてあるエリアの監視カメラの映像をポップアップ表示させる。加えて録画データからスナップショット画像を抽出、jpeg 等の画像ファイルにして関係者にメールを送信する。

■ 画像解析システムとの連動

画像解析機能搭載の AI カメラで人の転倒を検知すると PTZ カメラをその方向に転回させて映像を表示すると同時にパトライトを鳴動させる。省人化が求められる業務環境や常に複数人で相互の安全を確認しあうことが難しい環境下では有効な監視である。

■ ドローン連携

ドローンのカメラ映像も VMS に取り込むことで、例えば災害発生時にドローン映像を関係者で共有して迅速かつ確な対応につなげる。

■ 音声システムとの連携

危険エリアへの人の侵入をセンサーで検知すると、予め録音しておいた音声メッセージをスピーカーから警告としてアナウンスする。

カメラ付きインターホンと連動させることで、セキュリティゲート入口と監視センター間でビデオ通話、センター操作でドアを解錠する。

■ スマートデバイスとの連携

スマートホンやタブレット端末などのスマートデバイスを VMS のクライアントとして利用する、あるいはスマートデバイスを可搬型カメラとして VMS に取り込み表示する。

これらは一例であり、他にも様々な連携・連動による運用が可能である。

例えば、Genetec 社の「セキュリティセンター」は約 200 種類のイベントと約 80 種類のアクションを自由に組み合わせることができるため、さまざまな運用シーンで活用されている。

これからの設備運用においては、

- 運用にかかる人件費削減での収益性向上
- あるいは現在の体制（人数）を維持したまま、さらに高度な運用を目指す
- 労働人口の減少による人員確保が困難な状況下でも運用品質を落とさない仕組みづくりなど、人と時間をいかに抑えながら高いレベルの品質で運用できるか、このトレードオフの関係にある課題の両立を目指していくことになる。VMS がこれら課題に応える 1 つのソリューションとしてこれからも期待されながら進化していくであろう。

入退室管理を含めた 物理セキュリティ環境の整備

ここまでは VMS によるセキュリティについて運用の効率化も含めて紹介したが、入退管理システムの運用改善もこれからの整備課題である。

ここからは人の入退室管理や不正侵入に対する

VMSの利用について、フィジカルセキュリティ（物理セキュリティ）のためのシステムとして紹介する。

今までのICカードでの管理運用だけでは堅牢性を担保しきれないセキュリティエリアも増えてくる。コロナ禍を経てリモートワークの増加や、人の目に触れにくい環境下に置かれることも増えてきていることから、フィジカルセキュリティの4W1H、

- だれが？ (Who)
- いつ？ (When)
- どこで？ (Where)
- 何を？ (What)
- どう対処した？ (How)

を今まで以上により高い精度で監視、管理していく必要がある。

例えば、セキュリティエリアへのアクセスに生体認証を採用するのも解決策の1つとなる。

生体認証のセキュリティゲートを設ければ、「だれが？」、「いつ？」、「どこで？」については確実なエビデンスとして記録することができる。また、「何を？」については監視カメラとの連携で把握できるようになる。特に「だれが？」についてはカードの貸し借りで非認証者の不正アクセス

が起こりうるICカードでの運用とは異なり、確実に本人であることが担保できるようになる（写真1）。

ただ、生体認証の採用については認証デバイスの価格が下がりがつつあるとはいえカードリーダーと比較するとまだ高く設定されているため、すべてのセキュリティゲートに設置するにはコスト面で採用判断が難しい側面もある。導入検討においては複数のセキュリティレベルを設けて、エリアごとにアクセスレベルを設定し、より高度なセキュリティエリアへのアクセスに絞って生体認証を採用する等、ICカードと生体認証との併用による複合的な設備で運用していく検討も必要になってくる（表1）。

また、生体認証採用に際しては、当たり前のことであるが確実に本人が顔や指紋などの生体情報を登録する処理が必要であり、この登録のための施設管理者側での対応が必要になる。施設によっては24時間365日で登録できるようにしなければならないところもある。重要設備を有する施設であればトラブル対応で急に保守エンジニアを入場させるケースもあり、そういった都度の対応を想定すると、生体情報登録と認証デバイスへの反映をいつ何時であっても、時間をかけずに、省人



指紋認証デバイス

顔認証デバイス

写真1 生体認証デバイス(指紋認証, 顔認証)

表1 アクセスレベルの設定とエリアごとのゲートセキュリティ

アクセスレベル	エリア名称	エリア概要	対象者	ゲートセキュリティ
1	一般・来訪者エリア	敷地周辺から敷地内に入ったエリア（建物内の受付・応接室など）	来訪者・施設関係者	ICカード
2	執務・共用エリア	常勤する施設関係者や非常勤者が業務、作業で利用するエリア（執務室・社内会議室、共用通路など）	施設関係者	ICカード
3	高セキュリティエリア	重要度の高いシステムや情報・データを保管・取り扱うエリア（集中監視室・サーバ室など）	施設関係者（施設管理者・保全関係者）	生体認証

化対応できる仕組みも検討しなければならない。

前述の Genetec セキュリティセンターの入退管理機能（ACS：Access Control System）をプラットフォームとした入退室管理システムでは、IDEMIA 社の指紋認証デバイスあるいは顔認証デバイスと組み合わせたソリューションが提供できるが、そのソリューションに来訪者管理端末も加えると、登録運用の無人化も実現可能である。この来訪者管理端末はあらかじめ来訪者に QR コードをメールで送り、来訪時に QR コードと運転

免許証あるいはマイナンバーカードで来訪者本人であることを照合したうえで指紋あるいは顔情報の登録を行う。登録されたデータはセキュリティセンターを介して各場所に設置された生体認証デバイスに配信、即時に反映されるというソリューションである（図1）。

生体認証には顔や指紋以外にも静脈、虹彩、声紋などもある。どの生体認証を選択、採用するかは、施設の運用における有用性をコスト面、安全性、判定精度などと合わせ総合的に判断していく

●来場者の本人確認から生体情報（顔・指紋）の登録、受付までを自動化

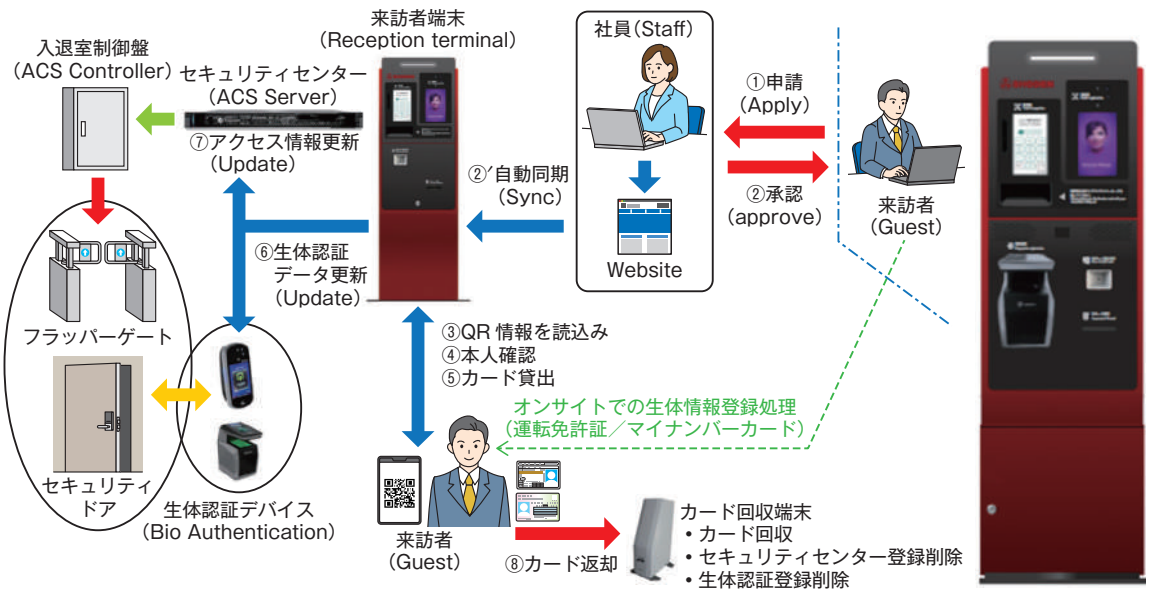


図1 来訪者管理システム運用フロー

ことになる。

監視・管理システムの強靱化

監視の世界においても様々な業務効率化のために前述の VMS の活用も含めて DX 化が進んでいく中、DX 化のシステム基盤の強靱化対策も重要になってくる。いかなるインシデントに対しても常に安定的な稼働を保証できるようにしていかなければならない。DX 化基盤がトラブル等で利用できなくなったとしても、人による代替運用ができるようにマニュアル化しておくことはもちろんだが、DX 化へのシフトが進めば人による代替運用ではすべてを補完することが難しくなってくる。

そのため、DX 化を支えるシステムの各装置や部品の障害を見込んで影響範囲を推測し、冗長性の高いシステム化を計画する必要がある。業務への影響度合いも含め完全冗長なのか一部冗長での

縮退運用とするのか、冗長構成での仮運用をどれくらいの時間枠まで許容するのか等、整備にかかるコストも含めて検討していく必要がある。

また、さまざまな障害を想定する中で、自然災害からシステムを護ることも強靱化対策として忘れてはならない。

例えば、地震や落雷、近年では浸水や冠水などの水害、これら自然災害が DX 化を支えるシステムに影響を及ぼす可能性は大きい。特に電源障害、通信障害が発生すると影響を及ぼす範囲は広い。

以下に、自然災害から DX 化のシステム（IT システム）を護る手段について紹介する。

地震対策

DX 化の中核となるサーバー保護の観点では HDD の振動による障害を抑止するために免震システムを導入することが対策の一つとして挙げられる。近年は記憶デバイスが HDD から可動部を

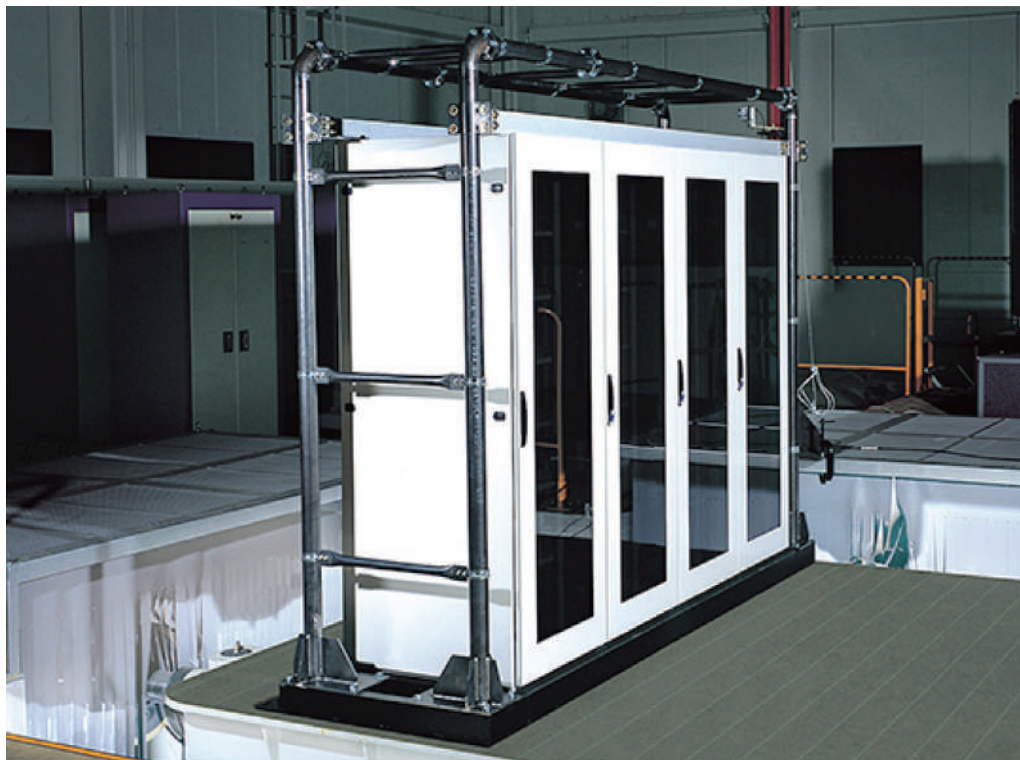


写真2 耐震架フレーム

持たないSSDにシフトしてきており、耐震性能が高まったとも言えるが、振動により発生する物理的なポイントでの接触不良等もあり、免震システムが重要な地震対策となる。

また、サーバーラック等の転倒による問題も想定し、転倒防止のためにシステムラックを架列単位で補強する耐震架フレーム等の導入も必要な検討要素である（写真2）。

雷害対策

地球温暖化から大気不安定化が進み、それに伴い雷の発生頻度が増えてきている。さらにハイパワーな落雷発生の可能性も高まってきている。ITインフラシステムの落雷による影響は大きい。近隣への落雷の影響を電源線や通信線を通じて受けてIT機器が破損する。半導体の集積度が高まる中、電気回路を介して侵入してくる過電圧、過電流をいかに防ぐか、落雷による影響を今まで以上にシビアに捉えて対策を講じていく必要がある。GPUサーバーの台頭、AIへの依存度が加速的に高まっていることから、雷対策の重要度が高まることは想像できるであろう。

近年はGPUサーバーの配備拡大の手段としてコンテナを利用したデータセンター化の話も増えてきているが、そういった施設に対しても、適切な接地が施された雷対策が求められることになる（図2）。

水害対策

地球温暖化による自然環境の変化の1つにはゲリラ豪雨も挙げられる。豪雨による洪水・浸水・冠水などに対してもシステム強靱化対策が重要である。近年は特に受電設備等の重要設備は建物内の高所に配置する傾向にあるが、未だに低層階に配置されているところも多く存在しており、水害によるシステムの保護は既存設備に対しても追加での対策として整備していく必要がある。冠水や浸水のリスクから設備を護るための対策としては、まずは建物に水が侵入する可能性のある境界部での止水が挙げられる。建物への水の流入を堰き止め、保護すべき設備の浸水を防ぐ、あるいは浸水の危機が迫っているシステムを正常にシャットダウンし、一時待避させるまでの時間を稼ぐための備えをすることが重要である。保護すべき場

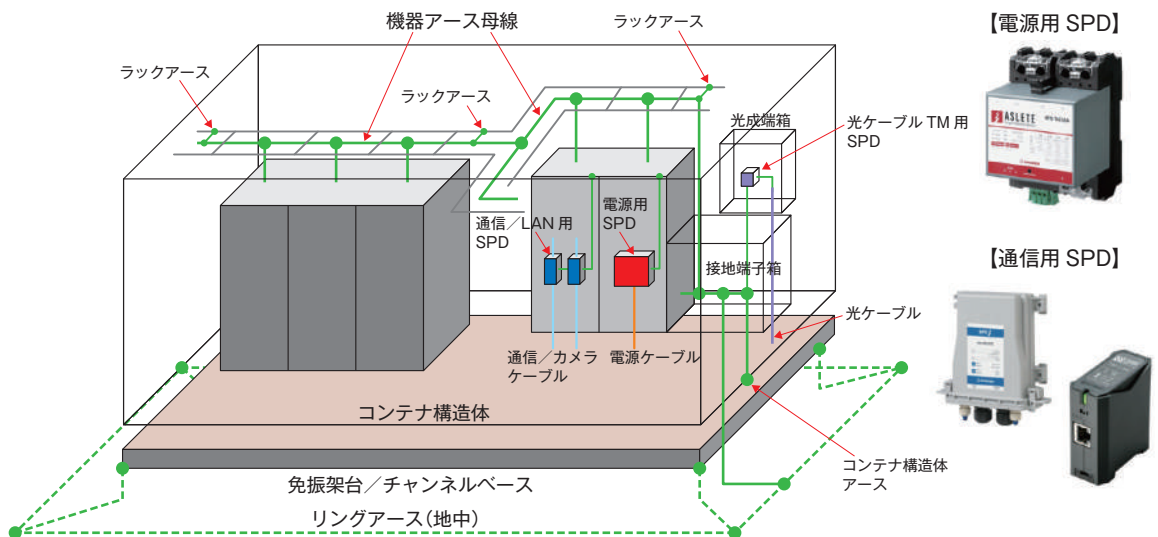


図2 コンテナデータセンターにおける雷害対策

製品	アクアブロック	ボックスウォール	フラッシュウォール
止水製品			
	アクアブロック本体を水に約3分浸し吸水させる。必要な幅・高さ分の数を作って積み上げる。	ユニットのジョイント部をつなぎ込みながら並べる。	メインユニットを広げて、両端を固定部材で壁(ガラス)面に固定する。
製作(組立)所要時間	約3分/個 ○	約5分で10m ◎	約5分/個 ◎
機動性	水の容器(タンク、水槽)の用意が必要 ○	軽量、設置(接続)が容易 ◎	軽量、設置(接続)が容易 ◎
保管スペース	省スペースで保管可能 ◎	重ねて収容可 ○	折り畳み式で小スペース保管可能 ◎
使用後の処理	脱水後に廃棄(各自治体の処分方法に従う) △	保管して再利用 ◎	水で流して乾かし繰り返し使用可能 ◎

図3 止水対策製品《一例》

所が被害を受ける可能性、保護すべきシステムの耐性や停止による影響度合、場合によっては漏水レベルでの検知や対策も必要となるため、要件に応じて検討、整備を進めていくことになる(図3)。

システム提供者としての これからの取り組み

VMSをプラットフォームとした設備運用の効率化・高度化についてはどこまでユーザーの課題を的確に捉え、解決につなげていけるかが重要である。同じ業種、同様の組織・体制、同様の運用であってもユーザーごとに課題は異なる。様々な課題に都度、柔軟に応え続けるためには汎用性の高いシステムであることが求められるが、反面、汎用性の高さが実効性の高いソリューションに仕立てにくい側面もある。

これらも踏まえ、我々システム提供者としては設備運用の効率化につながるソリューションを自

然災害に対する強靱化も含めて提供し続けていく必要がある。労働人口が減少し続ける中でも設備運用の品質を維持する、あるいはさらなる品質向上を求める企業の課題や期待に応えていかなければならない。

株式会社昭電

執行役員 技術ソリューション推進室長

八木 祥人 (ヤギ ヨシト)

2026
年版

総点検！建築物の 防災・防犯対策



製品・サービスガイド

<https://www.sdn.co.jp/products/security/netsec/omnicast.html>

監視カメラ統合監視システム Genetec Security Center

小規模から大規模まで対応する統合型映像管理プラットフォーム

Security Center（セキュリティセンター）は、Genetec 社が提供する IP ベースの監視カメラ統合管理ソフトウェアで、世界トップレベルの安定性と拡張性を特長とするビデオマネジメントシステム（VMS）である。小規模構成から数万台規模の大規模システムまで柔軟に対応でき、国内外の多様なカメラやエンコーダ、CCTV 機器をサポートするベンダーフリー設計を採用。高効率な映像配信技術によりネットワーク負荷や帯域コストを抑えつつ、高解像度映像のリアルタイム監視と長時間録画を両立する。さらに、直感的な操作画面、マップ連携、モバイル端末による遠隔監視など運用性にも優れ、空港や商業施設、公共インフラなど重要施設で幅広く導入されている。



株昭電 事業推進部 ● TEL 03-5819-8373 ● Eメール info@sdn.co.jp

www.icom.co.jp/lineup/products/IcomConnect/

AI インカム「ICOM CONNECT」

資料請求
No.105

緊急時も日常も、インカムが記録・共有・翻訳まで対応

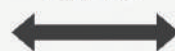
「さっき無線で伝えたのに」「聞こえなかった」—設備メンテナンスの現場で繰り返されるこうしたすれ違いは、緊急時には安全上のリスクにもなりうる。

スマートフォンで利用できるインカムアプリ「ICOM CONNECT」は、通話内容をリアルタイムで文字起こしする機能を搭載。聞き漏れ・聞き返しを防ぎ、作業記録にも転用できる。写真共有機能で現場の状況を視覚的に即共有。外国人スタッフへは 23 言語対応の同時翻訳機能で迅速な指示伝達もできる。また、アイコム(IP)の IP トランシーバー「IP510H」と通話の連携も可能だ。

60 年以上、無線機を開発・製造してきたアイコムが、アプリも自社開発。その信頼性で、緊急連絡から日常業務まで、現場のコミュニケーション基盤を確かなものにする。



IP トランシーバーとの
通信が可能！



アイコム(株) 国内営業部 マーケティング課 ● TEL 03-6240-3549 ● Eメール kikaku_g@icom.co.jp

<http://www.jadca.jp>

資料請求
No.101

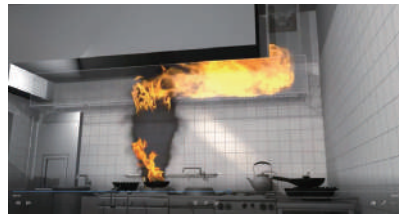
ダクト火災予防のための厨房排気設備の維持管理

計画的アセスメント(調査・診断)と清掃でダクト火災リスク低減

令和6年に都内で発生した飲食店火災は過去最多の393件を記録、内182件は初期消火に成功、47件が失敗であった。失敗原因の最多は『ダクト内からの出火』で25.5%に上る。遮蔽されたダクト内に調理火が燃え移ると消火困難なうえダクト経路全体へ延焼するリスクを含む。

東京消防庁は令和7年10月1日に技術基準『火気器具上部に設置される排気ダクト等に係る技術基準(6予第2196号)』を通知。火気器具上部に設置される排気ダクト(焼肉店などで使用される七輪やガスコンロの上部に設けられる排気)について半年に1回以上の点検とダクトに付着した油脂の厚み0.4mmを目安とした清掃及び記録の保管が述べられている。

JADCAでは、厨房排気設備の維持管理ガイドライン『JADCAスタンダード2018 厨房版』を出版。汚染判断・清掃計画立案の専門的な知識を兼ね備えた厨房排気設備診断士を養成し問題の解決へ取り組んでいる。



出典：消防庁ホームページ (https://www.fdma.go.jp/publication/movie/juutaku_bouka/post10.html)

(一社)日本空調システムクリーニング協会(JADCA) ● TEL 03-6274-6064 ● Eメール info@jadca.jp

<https://www.khozen.co.jp/>

資料請求
No.103

厨房排気システムの点検・クリーニング

お客様の目となり厨房排気ダクト火災の予防に努める

建築基準法や消防法等に基づいて設置されている厨房排気設備は、経年による設備内部の油塵の付着等によって、防災的問題や衛生的問題、機能的問題、経済的問題など様々な問題の発生源となる危険性をはらんでいる。特に、火災発生の危険性は建物内で厨房区域内が最も高く、一旦火災が発生すれば排気ダクトを通して延焼し、大きな災害を引き起こすこととなる。

弊社では厨房排気設備診断士などの有資格者が設備内(グリズ除去装置・排気ダクト内部・防火ダンパ類・排風機等)の汚損度などの現場調査・点検を行い、最適なメンテナンスサイクルを提案し、厨房排気設備全般のクリーニング、整備を実施し、これらの維持管理と予防保全に努めている。



(株)空調保全工業 本社 ● TEL 03-3973-8072 ● Eメール info@khozen.co.jp

<http://www.toa-kanzai.co.jp>

資料請求
No.102

換気の改善 空調・換気設備ダクト清掃／防火対策 厨房排気設備ダクト清掃

空調・換気のことなら点検から整備・清掃までワンストップ対応

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になって3年経とうとしているが未だに感染が無くなったわけではない。2026年はインフルエンザも全国的な広がりを見せている。換気設備は使用20年を過ぎると能力が4割程減少するとのデータがあるが、空気感染予防に有効な「換気」について点検・整備を行う事は建物利用者の健康を守ることに繋がる。
- ・厨房排気設備は使用により内部に油汚れが堆積するが、調理火が引火することにより建物全体を巻き込む大規模火災への危険性を孕んでいる。まずは清掃の必要性があるかを点検し長期的な清掃計画を立てる事が重要となる。



東亜管財株式会社
TOAKANZAI Co.,Ltd

東亜管財(株) 工事部 ● TEL 03-5246-7321 ● Eメール s.hanaki@toa-kanzai.co.jp

<https://alinco-denshi.com/>資料請求
No.106

デジタル簡易無線放送システム

配線工事不要，簡単設置の館内・構内放送システム

免許資格不要の無線機1台をマイク代わりに使い、専用の戸別受信機を対象の場所に任意の台数を設置して、ACアダプターを接続すれば一斉放送ができるアルインコの無線放送システム。無線機には話すタイミングを音でお知らせする機能や戸別受信機が電源オフの状態でも自動起動させる強制モードを搭載している。無線機は携帯型なので災害時には移動しながらの放送も可能、戸別受信機は大音量で聞き取りやすく、停電時には自動で乾電池に切り替わる。AM/FM ラジオ放送も聴くことができ、留守録機能も搭載している。チャンネルなどの設定は専用ソフトで容易にPCから書き込みができ、その設定データは保存ができるので複数の物件でも管理しやすい。配線・工事が不要のため低コストで手軽に導入でき、自営回線のため非常時に携帯電話が使用できない状況でも通信手段が確保できるので、老朽化したビル・マンションの既存有線放送システムの更新にも最適である。



アルインコ(株) 電子事業部営業部 ● TEL 0120-464-007 ガイダンス2番 ● Eメール edomestic@alinco.co.jp

<https://www.komy.jp/>資料請求
No.107

オートロックをすり抜ける“共連れ”対策に，死角を無くす「FF ミラー」シリーズ

視野が広いミラーでオートロックの共連れ，背後不安解消！

- FF ミラーはフラットなのに広い視野を持つミラー。目線の高さに設置することで、自然とミラーが目に入り曲がり角や後方などの「死角を見る」ことができる。
- 集合住宅での侵入犯罪ではエントランスからの侵入が最も多く、オートロックを解錠した住民と一緒に中に入る「共連れ」も問題となっている。オートロックの操作盤の周りにFFミラーを設置することで、住民は自然に背後を確認することができ、共連れ予防効果が期待できる。
- アクリル製のミラーは軽量、本体の厚みは約4mmと薄く、強力両面テープで設置可能（※ビス止めしたい場合は応相談）。導入後のランニングコストはゼロ。
- 実際の見え方や取付位置などを購入前に確認できる「無料貸出制度」（QRコードからアクセス可能）をぜひご利用ください。



コミー(株) お客様相談室 ● TEL 0120-531-073 ● Eメール mail@komy.co.jp

www.daihen.co.jp/products/electric/power/emergency-battery-package.html資料請求
No.110

防災用蓄電池パッケージ

リチウムイオン蓄電池採用の非常用電源が国内初の消防認定を取得

2025年7月30日に消防法が改正された。「特定防火対象物」に設置が義務付けられる非常用電源はこれまで大半が非常時のみ稼働するディーゼル発電機であったが、改正により常用・非常用兼用のリチウムイオン蓄電池の設置が可能となった。これを受け、ダイヘンはリチウムイオン電池を採用した非常用電源「防災用蓄電池パッケージ」を開発。国内で初となる消防認定を取得した。ディーゼル発電機と異なり、平常時の電気料金ピークカットや太陽光発電の余剰電力活用にも有益で、蓄電池ならではの価値を多く備えた非常用電源市場の新しい選択肢となっている。

【特長】 ①安心・安全な稼働：常時運転により部品劣化等を早く発見、非常時の不始動や異常停止を予防 ②環境負荷の低減：低騒音（75dB）、振動・排気ガス（黒煙）なし ③コストメリット：電気料金やメンテナンス費用の削減により、運用20年間のトータルコスト10%以上削減 ※ディーゼル発電機との比較



(株)ダイヘン EMS 事業部 ● TEL 06-7175-8599 ● Eメール carbon-zero@daihen.co.jp

<https://www.doi-web.com/>

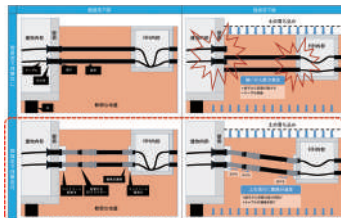
建屋引込部における耐震管路材システム

地震による地盤変位や不等沈下から建屋引込部の配管設備を守る！

地中配管設備が地震等で損傷した場合、修復に要する時間と費用は膨大となるため、地盤変位の影響を軽微にさせる「地中配管設備への耐震対策」が効果的である。

地中配管設備の地盤変位において最も影響を受けやすいとされるのが「地中線管路の建物引込部」と「ハンドホールの管口」である。地震や不等沈下が発生した際、中高層建築物の多くは建物を支持できる硬い地盤まで固定され動かないことに対し、建物周囲の地盤は変位するため、地中の配管引込部は建物側と地中側で大きく変位差が生じてしまう。ここに応力が集中することで、管路やケーブルの損傷や破断が生じる。

この対応として、建物貫通部に取り付けられた「防水錆鉄管」の地中側に、可とうと伸縮機能を兼ね備えた管路材を設け、地盤変位差による曲げや伸縮を吸収する。想定地盤変位量（0.2m 以下・0.6m 以下・1.0m 以下）と地中側管路（FEP・鋼管）の分類から管路材を選定・適用し、地盤変位時のケーブル損傷を防ぐ。



(株)土井製作所 営業推進部 ● TEL 03-4218-0230 ● Eメール cs@doi-web.com

<https://www.venn.co.jp/>

震災対策用機械式緊急遮断弁「EIM 型シリーズ」

資料請求
No.108

外部動力不要！安全・安心・省エネ＝「機械式」

震災対策用の緊急遮断弁は感震器と組み合わせることで、地震災害時に受水槽内の水（ライフライン）を確保する、燃料を遮断して二次災害（火災など）を防止する目的で設置される。従来の緊急遮断弁は電気により作動するため、感震器を内蔵した制御盤と停電時のバックアップ電源（バッテリー）が必要であるが、機械式緊急遮断弁は文字どおり電気を使用せず、地震感知出力と遮断弁の閉止を機械的な動力で行う「ゼロエネルギー商品」である。遮断弁本体部と感震器およびシリーズにて構成された弊社独自のシステムは、電源・制御盤・電気配線・バッテリー不要の「安心・安全・省エネ形」の緊急遮断弁である。

[主な特徴] ○省エネ ○安心・確実 ○二次災害防止 ○高い信頼性 ○官庁仕様適合 ○感震器1台×遮断弁2台制御も可能(EIM-7型) ○JASO(NPO 法人 耐震総合安全機構) 推奨品



(株)ベン ● TEL 045-227-5247 ● Eメール info@venn.co.jp

<https://www.yamabiko-corp.co.jp/energysolution/form/>

マルチハイブリッドシステム

資料請求
No.109

カーボンニュートラル社会の実現に貢献する革新的な発電システム「マルチハイブリッドシステム 10kVA」

本システムは、太陽光発電*、蓄電池、発電機を組み合わせ、稼働状況や天候に応じて電力を最適に供給するもので、晴天時は太陽光発電の余剰電力を蓄電池に蓄え、発電機の稼働を不要にします。* 太陽光パネルは別途手配が必要となります。

そして、悪天候時は蓄電池からの電力供給を優先し、発電機の稼働を最大 90% 以上* 削減することが可能です。これにより、再生可能エネルギーの最大活用と CO₂ 排出量の最小化を実現します。発電機単体で電力供給した場合と比較して、化石燃料由来の軽油の使用量は最大 90% の削減となり、コスト削減にも寄与します。* 発電機単体を 24 時間稼働させた場合の試算値との比較

また、騒音や排気の低減による快適な作業環境の提供に加え、災害時の独立電源や BCP 用途にも適しており、建設現場やイベント会場、再エネ志向の自治体・企業等における省エネ・脱炭素ソリューションとして幅広い活用が可能です。



やまびこジャパン(株) エネルギーソリューション推進部 ● Eメール energy@yamabiko-corp.co.jp

共創による「安全・安心」の価値を未来へ

品に関する検証実験・性能試験ラボ

TEST Lab.
テストラボ



雷害対策の解析に基づき、評価・検証実験及び各種製品の性能試験を実施するテストラボ環境

重要施設向けセキュリティ製品デモンストレーションルーム

SOLUTION Lab.
ソリューションラボ



重要施設の安全強化や最適化に向け総合ソリューションを実証体験できるラボ環境

 **地震対策**

免震装置

SD-5 typeⅢ



新機構採用で、短周期地震動、長周期地震動による変位制御を実現!

- 震度7クラスの揺れに対応
- 短周期、長周期地震動に対応
- 常時待機方式で、水平方向の地震動に即応
- サーバ、通信設備の地震対策に最適

 **雷害対策**


電源コンセント用・LAN用・テレビ用SPD

サンダーブロッカーPro



パソコンやネットワーク機器、テレビなどを雷から保護する高性能なSPD

- 電気工事資格が不要で、カンタン取付・配線
- 最新JISに対応した高性能SPD
- SPDの寿命がわかる状態表示
- 2021年度グッドデザイン賞を受賞

 **セキュリティ**


吸水性土のう [アクアブロック]

AQUABLOCK



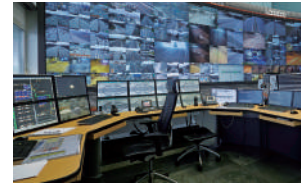
3分の吸水で使用でき、軽量かつ頑丈、強固で破れにくい

- 約3分のスピード吸水で土のうが完成
- 再利用、海水対応のラインナップをご用意
- 天然素材の麻袋と肌に優しいポリマーを使用
- 国土交通省NETIS登録品

 **セキュリティ**

Genetec社 VMS

Security Center



入退室管理や生体認証、各種センサ等と連携した監視カメラ統合管理システム

- カメラ5万台(ほぼ無制限)の統合管理が可能
- 複数拠点、複数端末で映像、音声、情報を共有
- センサー、アラームを受信し、自動で処理実行
- 画像処理技術により、人手に依らず異常を検知

総合防災特集サイト

基本知識、専門情報から対策製品まで総合的にご紹介

www.sdn.co.jp/special/bosai/



その厨房排気ダクト、

火災の原因になっていませんか？

油塵付着による機能不全が招く最悪のシナリオ

※画像はイメージです



レンジフードや排気ダクトなどの厨房排気設備は、油脂やほこりがたまりやすく、維持管理を怠ると火災や一酸化炭素中毒事故につながる危険性があります。定期的な清掃と点検であなたの大切な命と財産を守りましょう。



油塵によるダンパー固着



厨房ダクト内の油塵



温度ヒューズの破損



防火シャッターの劣化

見えない危険を 見える安心に

私たち日本空調システムクリーニング協会（JADCA）は、日本全国の会員企業ネットワークを通じてビルや飲食店の安全を守っています。厨房排気設備の点検は専門的な知識と技術を兼ね備えた「**厨房排気設備診断士**」にご相談ください！



- ✓ 建築物衛生法や消防法に準拠した清掃・点検
- ✓ 有資格者による確かな作業
- ✓ 全国ネットワークで対応

東京消防庁と連携し 技術提供や情報交換を行っています

東京消防庁管内の火災件数は、全体として減少傾向にあるなかで、飲食店からの火災件数は増加傾向にあり、火を使用する厨房からの出火が約半数を占めています。厨房設備の維持管理の不徹底等で油脂等が付着・堆積した場合、これらが延焼媒体となり火災が拡大していきます。このため、排気ダクト等の維持管理は非常に重要です。

東京消防庁「飲食店の厨房設備等に係る火災予防対策ガイドライン」より



一般社団法人
日本空調システムクリーニング協会

JADCA

検索



見違えるほど、

空調機器の洗浄・整備

ビル総合管理会社ならではの幅広いニーズにお応えします。

ダクトクリーニング

D.C.C. 工法（建設省技術評価取得）2000 件を超える実績を持った確かな技術です。

厨房排気クリーニング

東亜管財で行うのは清掃+効果的な火災予防です。



東亜管財株式会社
TOAKANZAI Co.,Ltd

美しい。

ダクトの話です。

東亜管財株式会社
TOAKANZAI Co.,Ltd

〒110-0042 東京都台東区寿 1-2-7 TEL.03-5246-7321 FAX.03-5246-7380

上信越地区(新潟・長野・群馬) 株式会社アクス TEL.025-283-4425
北陸地区(福井・石川・富山) 株式会社アスカ設備研究所 TEL.076-275-7060
神奈川地区 株式会社ニコー TEL.0466-34-2411
九州全域 有限会社九州アート管財 TEL.096-357-1999

<http://www.toa-kanzai.co.jp>



資料請求 No.102

また、たのみます。



助かったよ。



ありがとう。



また、たのむよ。



助かりました。



ありがとう。



ありがとう。



また、たのむよ。



助かったわ。



ありがとう。



また、たのむよ。



助かったよ。



また、頼まれる 私たちです。

- 見えないところを見ています。見えないところに手がとどきます。
- 作業に対する愛情と真心——これが私たちの信条です。
- 実際の作業マンがじかにうけたまわります。空調保全の産直システム。
心がかよってムダがありません。

業務案内

～清潔・正常・最適な状態を
維持するために～

- ※各種空調設備クリーニング
- ※機器・設備メンテナンス
- ※機器更新・リニューアル
- ※測定点検業務(定期点検・状態確認)
- ※空調用冷却水管理(水処理)

☒ URL : <https://www.khozen.co.jp/>

株式会社 空調保全工業

本 社 : 〒173-0037	東京都板橋区小茂根3-17-1-4階	TEL.03-3973-8072(代)
池袋支店 : 〒173-0037	東京都板橋区小茂根3-17-1-3階	TEL.03-3973-8040(代)
城南支店 : 〒146-0082	東京都大田区池上5-11-10	TEL.03-3753-2981(代)
多摩支店 : 〒183-0011	東京都府中市白糸台1-41-2	TEL.042-314-0881(代)
城東支店 : 〒134-0091	東京都江戸川区船堀5-8-20	TEL.03-5679-9686(代)
総合TC : 〒332-0003	埼玉県川口市東領家4-19-13	TEL.048-242-5820

ICOM

緊急時も日常も。 インカムが記録・共有・翻訳まで対応。

了解、おつかれさまです。

B地点、終了しました。正常です。

AIインカムアプリ

ICOM CONNECT

- IPTランシーバー連携
- 同時通訳
- 画像の送受信
- 文字起こし

アイコム株式会社

本社 547-0003 大阪市平野区加美南1丁目1-32 www.icom.co.jp

●表示はハメコミ合成分です。

製品情報は
こちらから



資料請求 No.105

ALINCO

安心と豊かさを創る

免許・資格
不要

屋内放送設備の入れ替え・新規導入…
手間とコストが心配…

アルインコの無線放送システムが最適です！

製品ページ



DJ-DPS70E



XEAL30DE

デジタル簡易無線を利用した
全く新しい放送システムです。



送信端末

デジタル簡易無線機登録局
DJ-DPS70E (EMG)



こちらは
OXビルの
防災センター
です…

ココが POINT

- 1 送信端末は携帯型なのでどこからでも、**屋内に一齐放送!**
- 2 停電時は自動で乾電池に切替、電源オフ時でも**緊急放送は強制的に受信!**
※デジタル簡易無線がカバーできる範囲なら屋内外、どこでも受信できます。
- 3 **配線工事不要! 低コスト! 簡単設置!**
- 4 録音機能も付いているため**メッセージの聞き漏らし無し!**



受信端末

デジタル簡易無線用戸別受信機
XEAL30DE

お問い合わせは

アルインコ株式会社 電子事業部

0120-464-007

営業支店：東京・名古屋・大阪・福岡

(ガイダンスで2番 平日10~12時、13~17時)

E-メール ☒ サポート情報

<https://alinco-denshi.com/>

資料請求 No.106

オートロックをすり抜ける“共連れ”は、住まいの安心を揺るがす悩ましいリスクです。

防犯対策を、ミラーでもう一段引き上げる

共連れリスクを“見える化”



❑ 工事不要

電源・配線は不要。オートロック操作盤まわりに貼り付けるだけの簡単設置。

❑ 低コスト導入

高価なセキュリティ機器と比べて圧倒的に低コストで導入できる。ランニングコスト0。

❑ 住民の安心感向上

背後確認を促し、防犯意識向上をサポート。



フラットなのに広く映る
コミーのFFミラー

『無料貸出制度』実施中!

ご購入前にミラーの見える範囲や設置位置の確認ができます。詳細・お申込みはコチラ▶



コミー株式会社 〒332-0034 埼玉県川口市並木1-5-13 tel:048-250-5311 <https://www.komy.jp>

資料請求 No.107

震災
対策用

機械式緊急遮断弁

JASO NPO 法人 耐震総合安全機構推奨品

外部動力不要

地震災害時の

① ライフライン(水)の確保

② 燃料油(ガス[※])の流出による
二次災害防止

- ・感震器2台制御用
- ・電磁式 / 電動式遮断弁
- ・水道法性能基準適合品 もラインナップ!

※各種特殊流体はお問い合わせください。

感震器



EIM-7型
(バネライオン)



作動 / 復旧動画
詳しくはこちら!



流れ・ビューティフル
株式会社



本社

〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町3-30
TEL 045(227)5241 FAX 045(227)5234

営業所・出張所

東京・西関東・東関東・北関東・関越・新潟・仙台・盛岡・札幌
大阪・岡山・名古屋・静岡・金沢・広島・福岡

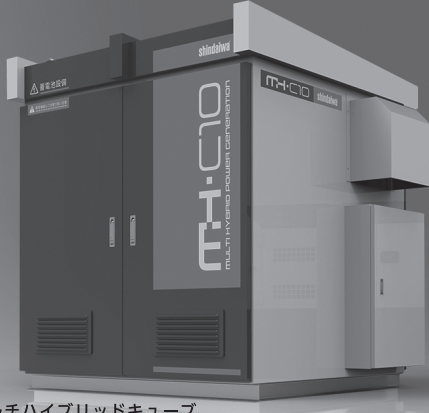
資料請求 No.108

shindaiwa®

再エネ活用とBCP対策を両立！

マルチハイブリッドシステム

MH 誕生！



マルチハイブリッドキューブ

4つのメリット

- 1、燃料1タンクで「約260時間」[※]の電気供給
- 2、スマートフォンで稼働状況をチェック！
- 3、通常時は太陽光と発電機でピークカット
- 4、再生可能エネルギーでCO₂削減[※]

※専用発電機は大型燃料タンク、太陽光パネル接続時



専用発電機

特設サイト▼



■お問い合わせ先

やまびこジャパン株式会社

TEL.0428-32-6181



資料請求 No.109

探したい製品、すぐに見つかる！

ビル設備管理ガイド Web版

『設備と管理』臨時増刊号として発行していた『ビル設備管理ガイドブック』がWEB版へと進化しました！

- 空調・省エネ・防災・給排水など、設備管理に役立つ製品を多数掲載
- フリーワード&用途別検索で時短！
- 24時間いつでも無料閲覧
- セミナー・イベント情報も掲載

随時更新

詳しくは「ビル設備管理ガイド Web版」で検索 または QRコードから
<https://www.ohmsha.co.jp/setukan/setukandb.htm>

